



KAGAYAKU

題字：木版
西野一男さん

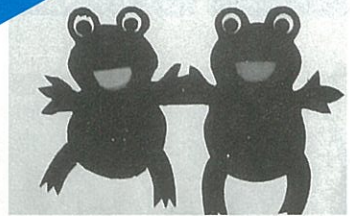
41

かがやく

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー

感動人生！

ここに生きる元気な人間びと



▲マーチング・マーチ♪



▲龍宮城はどこ？ ～その後の浦島太郎～



▲スクリーンの裏側は・・・



▲一品持ち寄りランチタイム



▲「かげえグループ・モコモコ」のみなさん

■かげえグループ・モコモコ（藤沢） 光と影のファンタジー

影絵には不思議な魅力があります。手で形づくると蝶や花も幻想的ですが、厚紙とポリカラーで作られた人や動物、景色などが色とりどりに照らし出される様は、まるで夢の世界です。

そしてそこに、セリフや音楽を乗せて、影絵芝居が始まります。

これら全てを自分たちの手で作り上げるのが「かげえグループ・モコモコ」の皆さん。8人のメンバーで活動しています（代表・松尾貴子さん）。

子どもの小学校卒業時の謝恩会実行委員として、6年間の思い出を影絵にしたのが、そもそもの始まりとか。お母さんパワーは偉大です。

そして翌年春、産業文化センターの「こけら落とし公演」を機に再集結。そこからスタートしたモコモコの活動は、30年以上も続いています。

「長続きの秘訣ですか？ みんな同じ頂上を目指しているからですね。どのコースを辿るかは、全員で話し合っ決めていきます。」

まずは題材を選び、脚本を書き、人形や背景を作り、音とセリフを録音します。一年がかりです。

「とにかく良いものを作りたい。」
「作品のメッセージを届けたい。」

その一心で作りに上げていきます。

仕上がるまでには、ずいぶんご苦労がありそうですが、お客様の笑い声を聞くと、全てが報われるのだそうです。

スクリーンの裏側では、緻密な連携プレーが繰り返り広げられていて、優雅な客席側とのギャップに驚かされます。

「楽しんでるんですよ。私たちが。」
サラリとおっしゃる松尾さん。積極的に新しい方を迎え、今まで培ってきたものを伝えていきたいと皆さん願っているそうです。

公演依頼を受けて、幼稚園や保育園、小学校、高齢者施設などを訪れます。ドラマフェスタin入間には、毎年たくさんの方がモコモコの影絵を楽しみに来場します。特殊な蛍光管を使って人形たちを浮かび上がらせる『ブラックシアター』も人気です。

グループ名は、「若草の芽がモコモコと土の中から頭をもたげるように、人間の地から文化の芽をモコモコと生やし育ててゆきたい。」そんな思いから名付けられました。

モコモコが蒔いた種は今、満開のかがやく花を咲かせています。





■むらさきサークル 講師 浦すい子さん(東金子)
着物を後世に伝えたい

日本古来の伝統文化である着物。最近では、特別な催し以外ではあまり見かけなくなりました。街で着物を着ている人を見ると、「うわあー、きれい!!」と思わず見とれてしまいます。



▲会員の皆さん

子どもの頃から着物が好きで好きで、着付け教室の先生になった浦すいさんは、現在、東金子公民館の「むらさきサークル」(会員10人)で講師を務めています。

浦さんは、20歳を過ぎた頃から着付けを習い始め、着付け教室の助教授になりましたが、結婚を機に活動を中止。でも、子育てが終わったころ、やはり着物が忘れられず、2人の先生が立ち上げていた今のサークルに入会し、その後、先生方の後を継いで、講師として着付けを教えているそうです。

着付けは、鏡を見ずに、指先の感覚だけでするのが基本とのこと。全て仕

上がってから初めて鏡を見るそうです。

「背筋、腰のあたりはまつすぐに。腰から下は、少し曲がついていても自然に前で合わさる。『しわ』は両サイドに伸ばす。」

先生の教えに従って、生徒さんたちも指先の感覚だけで着付けていきます。仕上がりはとてもきれいです。

入会してから10年以上になるという会員の一人は、「友人の娘さんの晴れ舞台に着物を着せてあげました。本人も友人も、とても喜んでくれました。サークルもとても楽しくて、みんなで月に一度着物で出かける日を設けているんです。」と話してくれました。

着せてあげて喜ばれ、着ていると心が落ち着く、そんな着物。浦さんたちの活動がもつともつと広まっていきたいですね。



▲着付け前後

▼着付け前後



■リサイクルプラザ ボランティアグループ
マイバッグ作りよみがえる古布

リサイクルプラザの運営に協力するボランティアグループ「古布班」は、裂き織り作り、布ぞうり作り、マイバッグ作りのグループに分かれて活動中です。今回はその中のマイバッグ作りのグループを取材してきました。

毎月第2日曜日にリサイクルプラザで開催される「リサイクルの日」のマイバッグ作りは、手ぶらで参加できます。材料には、市民からクリーンセンターに持ち込まれた不用品の布や、古着をきれいにしたものを利用します。事前にミシン掛けなどの注意点が細かく指導され、その後デザインを決めてマイバッグ作りがスタートします。

この日も午前10時から正午までの2時間で、10人ほどがマイバッグ作りに励みました。出来上がった素敵な作品を誇らしげに持ち帰る姿は、皆さん喜びにあふれていました。

マイバッグ作りのグループは、この他にも万燈まつりなどのイベントに出店する為に、買い物袋、巾着などさまざまな形のバッグを作っています。会員の方々は、それぞれ自分の得意とする技術を活かし、ボランティアとして腕をふるっています。その中でも不用品となったジーンズが買い物袋



▶不用品の布を切り分けます



▲「古布班」活動風景

に変身した様は見事です。

また、古くなったお気に入りの布の部分の骨を外し、縫い目をほどこき、形を整えてから縫い直し、新しい物バッグに！水を弾き、ちよつとした防水バッグになるそうです。

スタッフの皆さんは「捨てればゴミ、活かせば資源。一人一人が、ゴミの減量化を考え、日々実践しなければと思っています。」と語ってくれました。





■人間幸武館合気道部代表 関戸章弘さん(金子)
合気道、どんなスポーツ??

加治丘陵を望む根岸の地に「幸武館」があります。昭和7年、根岸農家組合が作った共同稚蚕飼育所が、その後さまざまな共同施設を経て、現在の剣道、居合道、合気道、吟道の四道の道場となりました。幸武館の名称は当時組合長であった中島幸太郎氏の「幸」を取ったものです。

なぜ合気道は人気があるのでしょうか。それには次の3つの理由があります。

「1」健康法として 合気道は攻撃してくる相手の力を利用するので、強い筋力が必要とせず、老若男女を問わず誰にでもできます。健康法として人気が高く、広く定着しています。

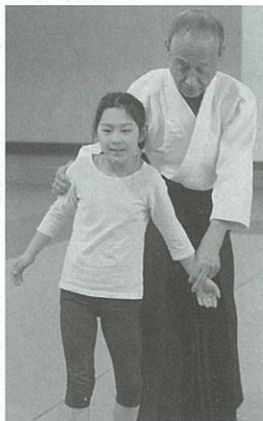
「2」護身術として 合気道は無駄な力を使わずに、相手の攻撃を無力化します。よって年齢や性別・体格・体力に関係なく、相手を制することが可能です。



▲朝の練習風景



▲親子での練習



▲合気道体験教室

道は精神と身体の統一を行うことを第一要件とした武道であり、いたずらに他と勝敗を競うことはありません。つまり、本質的な部分で西洋の競技スポーツとは異なります。

合気道部では、凛々しい練習姿の女性や高齢者が練習に励んでいます。春と秋の年2回、合気道体験教室も開催しています。

「健康だけでなく、礼儀・心身鍛錬・護身・美容に効果のある合気道を楽しく一緒に学びましょう」と熟練の高級者が熱く語ってくれました。

代表の関戸章弘さん(師範七段)の、寡黙ながらも分かりやすく丁寧な指導が印象的です。

■人間ドイツ語教室(西武)
国際交流の懸け橋に

ドイツと聞いて、どんなイメージがわいてきますか？ 毎年、万燈まつりに姉妹都市から来訪される、体格のいいドイツの人たちを思い浮かべる人も多いことでしょう。

ドイツとその文化をこよなく愛する人達が集まり、長年続いているサークルがあると聞いて、西武公民館を訪ねました。

毎月2回、土曜日の午前中に活動している人間ドイツ語教室(代表者横田芳男さん、会員10人)です。

指導しているのは、40年以上も日本に住み、大学で教えたりドイツ語教室を開いたりしてきた、ギゼラ八木さんです。



▲先生を囲んで和やかに



▶ヴォルフラーツハウゼン市
ロイザツハ河畔

この日のプログラムは次のようなものです。

「1」最近のトピックの発表 プロ野球の交流戦や、ドイツを旅した時に見た「魔女の祭り」について、2人が発表しました。

「2」物語の読みと解釈 取り入れの終わった広い麦畑で、戦争に行つた父を思いながら、凧上げをしているハンス少年の物語

「3」文法の勉強 動詞の活用、方向や位置を表す前置詞、副詞について。

「4」ドイツ語の歌 「歌う会」を主宰しているメンバーがリードして、歌曲・民謡・童謡などを歌います。

人間市は1987年に、ヴォルフラーツハウゼン市と姉妹都市に。その8年後、このサークルの前身になる「初めてのドイツ語教室」が、市の後援で開かれました。

「ヨーロッパを旅したり、ドイツに住んだりしたことのある人が何人もいますので、いつも楽しい話題で盛り上がりがあります。交流の橋渡しとして、役に立てばうれしいです。」と、発足当時のメンバーの横田さん。

ドイツ語を学ぶ機会がない人のために入門講座を開くことを、ギゼラ八木先生は考えています。



感動人生！ここに生きる元気な人間人びと

■ファンゴマツシエクラブ
万燈まつりを盛り上げよう

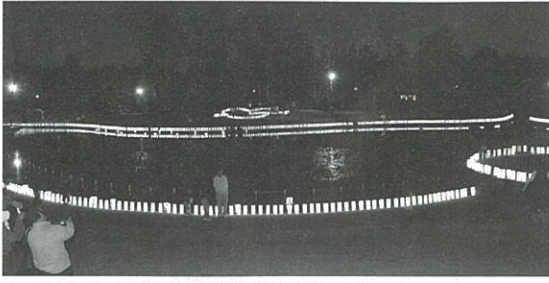
間もなく開催される万燈まつりで、子どもたちの人気を集めている催しを提供しているグループを紹介します。

グループ名は「ファンゴマツシエ」。これは、東金子の方言で、「ちよつと寄つてお茶でもどうですか。」という意味の「ふんごまつしえ」を基にした造語だそうです。

「会場を訪れた人々にぜひ立ち寄りていただきたいという思いで名付けました。」とグループを立ち上げた杉山若江さんが教えてくれました。

毎年万燈まつりでは、彩の森入間公園の多目的広場で、段ボールで作った迷路のほか、輪投げや巨大あみだくじなど、子どもたちが手軽に遊べるアトラクションを用意し、人気を博しています。

また、初日の夜には、東日本大震災を忘れないようにと、園内の池の周りに2011本の手作りキヤンドルを灯



▲昨年の夜のファンタジーの様子

す「夜のファンタジー」を行っています。キヤンドルの周りには、市内の幼稚園、保育所、学童保育室の子どもたち、それに市内の高齢者施設に入所している人たちが描いた塗り絵が張られています。中には、姉妹都市のドイツ・ヴォルフラーツハウゼンの人たちの塗り絵もあります。

どれも、入間市のお祭りに子どもたちも楽しんで参加できるようにと、スタッフ皆で考案した催しです。

現在、グループには協力者を含めて40人が参加しています。取材に訪れた日には、20人程が汗を流しながら、施設に依頼する塗り絵を仕分けしていました。

「今後、若い人たちにもこの事業にぜひ参加していただきたいですね。」と杉山さん。

万燈まつりでは、ぜひファンゴマツシエの「子ども遊び場&夜のファンタジー」に立ち寄ってみてください。



▶塗り絵の仕分け



あなたも“いるまなびと”になろう！

第21回 いるま生涯学習フェスティバル

皆さんのおかげで「21年目」を迎えた生涯学習フェスティバル。今年も新たな「学び」と「出会い」をご用意して、皆様をお待ちしています。

- ◆日時：平成27年12月6日(日) 午前9時45分～午後3時45分
- ◆場所：入間市産業文化センター・児童センター 他
- ◆主催：入間市・入間市教育委員会・(公財)入間市振興公社
入間市生涯学習をすすめる市民の会
- ◆主管：第21回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会

人間学人



●編集後記●

●ボランティアグループの取材をしていて感じるものがあります。それは若者が少ないことです。若者よ、参加して頑張ろう。(MK)

●近所同士のゴミトラブルの話をよく聞きます。この問題は、永遠のテーマのようなものです。日本は世界一マナーが良い国と認識しているのに、残念です。(HT)

●時間を忘れる程に熱中できることがある人は幸せです。それを自分の仕事に出来れば、人生は豊かになるでしょう。ゲームではなく。(ST)

●どきどきしながらも、初めて取材と編集に関わりました。取材先の皆さんの知恵と工夫がすばらしく、ただただ感激です。(SK)

●今号から「かがやく」編集委員に仲間入りしました。かがやく人たちを、たくさん紹介したいと思います。(TE)

●古希を迎え、初めて編集作業に携わり、生きる姿勢と心を学んでいます。(KH)

●「思い込みを捨てたら、先が見えて来た。」あるアスリートの言葉です。独りよがりな自ら孤独を招くのでしようね。(NT)



企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 入間市教育委員会生涯学習課
連絡先 〒358-8511 入間市豊岡1-16-1
TEL 04-2964-1111(内線4124) FAX 04-2964-4841